# 伝言館の活動とALPS処理汚染水の海洋投棄差止訴訟について

楢葉町ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フ汚染水投棄シマ伝言館は、故早川篤雄氏が、半世紀にわたり住民の命とくらしを守るために原発建設反対、事故後は原因究明と被災者への謝罪、完全賠償を求めて闘った運動の資料をわかりやすくパネルで解説する資料館。まさに福島原住連資料館です。さらに、核災害をなくすために被団協や原水協から提供された沢山の写真も展示。日本唯一の原発と核災害をなくすための資料館で、全国から「脱原発を求める」団体・個人はもちろん、近年は大学生のゼミ単位での来館が増えている。今年の3.11追悼集会には全国から190名が集い、被災地視察も行われました。被災地で被災者が運営している、その存在の大きさも評価されつつありますが、運営は来館者の募金のみであり、ボランティアで運営されているので将来の見通しが立たない不安も抱えています。

皆さん伝言館へお出かけください。被災地視察案内も致します。

また、被災地での新たな闘いとして「ALPS処理汚染水の海洋投棄差止訴訟」が365人の原告で2023年9月福島地裁に提訴され、4回の裁判が開かれています。国は「復興の為」と安全に処理しきれていない汚染水をすでに11回85,000㎥以上投棄しています。政府は2015年漁業者に対し「いかなる処分も漁業者の理解なしには行わない」と書面で約束したにも関わらず一方的に反古、「理解なしに」とは「同意なし」ではないというのです。さらに放出により営業被害や平穏生活権を奪われる漁業者以外の販売業者や浜通りに住む県民、海産物食する国民には「原告適格がない」と言います。原発事故の放射能拡散と海洋投棄による「2重の被ばく加害」を負わせる国と東電は「海水で薄めて基準値以下にしているから安全」などという非科学的な投棄は即刻止め、環境破壊者としての責任をしっかりとってほしいと思います。そもそも汚染水を発生させない広域遮水壁や陸上保管などが専門家から提起されています。新安全神話作りに巨額の税金を投入するは止めて、至急汚染水投棄は止めてほしいと闘っています。マリアナ諸島の皆さんや、韓国の海女さんとの連帯も広がっています。命の宝庫、海はゴミ捨て場ではない！裁判支援よろしくお願いいたします。

ヒロシマナガサキビキニフクシマ伝言館事務局長　ALPS処理汚染水海洋放出差止訴訟事務局長　丹治杉江